

『リメンバー・ミー』

2017年／アメリカ／リー・アンクリッチ監督作品

ほっこりする映画

会員 和田 周 (74期)

1 はじめに

すでにご覧になった方も多いかもしれないが、私は昨年はじめてこの映画を観て、心に残ったのでここで紹介したい。ピクサー・アニメーション・スタジオ制作の長編アニメーション映画であり、子どもだけでなく、大人も楽しめる映画だと思う。

2 この映画の舞台

この映画の舞台は、メキシコのある町と、死者の国（死後の世界）である。映画では、亡くなった家族の写真を祭壇（オルレンダ）に飾り、死者の魂を迎える準備をしているところが描かれている。実際に、メキシコには、死者の日（ディア・デ・ロス・ムエルトス）という、年に一度、11月1日から2日頃、祭壇に亡くなった人の写真やマリーゴールド、十字架などを供えして、亡くなった人の魂をお迎えするという日がある。この映画では、メキシコの死者の日をモチーフとする、マリーゴールドのオレンジ色の花が街中や祭壇に飾られたイベントの描写がなされている。亡くなった人の魂を迎えるという意味では、日本でいう夏のお盆のような感覚に近いものなのではないかと思う。筆者はメキシコに詳しくないのだが、この映画を観て、一度メキシコの死者の日のイベントを観に行ってみたいと思った。

3 この映画を観たきっかけ

この映画の存在に気付いたのは、私が昨年、ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャー・パークに行ったときだった。絵画を販売しているショップに入ったところ、この映画をモチーフにした、少年

と老婆の絵が飾られていた。私はこの映画を観ていなかったので、一緒に回っていた妻に、「この絵は何の映画だろう」と聞いたところ、絶句された後、「まだ観てないの」「この名シーンを知らないなんて損してるね」と言われて、それをきっかけに観たという経緯がある。また、ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャー・パークでは、期間限定で、ハロウィーンとともに死者の日をお祝いするエリアが設けられており、そのエリアを訪問したこと、この映画を観たいと思うきっかけとなった。

4 この映画をお勧めする理由

この映画の魅力は大きく3つあると思う。1つは、音楽である。この映画は、家族に反対されながら、ミュージシャンを志す少年、ミゲルが主人公だが、ミゲルや、他の登場人物が歌う歌がとても聞き心地がよく、映画の雰囲気とも合致している。ディズニー映画やピクサー映画には、音楽が素晴らしいものが多いと思うが、本作は特に素晴らしい曲が多い映画なのではないかと思う。実際に、この映画は第90回アカデミー賞で「長編アニメーション映画賞」と「主題歌賞」をダブル受賞しており、音楽が非常に高く評価されている。

2つ目に、映像がとても美しいことが挙げられる。主人公ミゲルは、死者の日に、うっかり死者の国に迷い込んでしまうのだが、その死者の国の映像が、とても美しいと思う（語彙力がなく伝わりづらいが、ぜひ実際に観ていただきたいと思う）。

3つ目に、物語が素晴らしいことである。家族愛を描いた素晴らしい映画だと思う。ほっこりしたいときにお勧めしたい映画である。